

I 出来事の「事実」と出来事の真の意味を含む「真実」を見分けて語る事が非常に大切です。

1. 「真実を語りなさい」：25。「事実」を語る事と「真実」を語る事は、同じ事とは限りません。目で見ただけの出来事の一面の事実を語っても、真実を伝えていない事があります。

※リハビリのたとえ。耳で聞いた出来事の一面の事実を語っても、真実を伝えていない事があります。

※片方からの情報だけでは、真実ではない事が多くある。両方から聞いても、聞く私達の耳も完全ではない事を認めたい。私たち人間の目や耳は、罪や心のゆがみで完全ではない事を謙遜に認める事が必要なのです。

2. 福音の「真理・真実」を語る事も、「起きた事実、出来事」を語る事と同じではありません。

「イエスは、十字架で死んだ」「イエスは殺された」。これは、出来事、事実を語っただけです。しかし、福音の真理、真実は、もっと深いものです。「真実」には、出来事、事実の真の意味が含まれます→「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるためによりがえられたからです」ローマ4：25。

「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」5：8。

ただご自身をお捨てになったのではなく、「私たちの罪のために」「私を愛し私のために」という深い意味のある「真実」。この歴史的事実、出来事の意味、神の御目的である「真実」を語る事が、福音（良き知らせ）を語るという事です。

※聖書の価値。神が私達に聖書を下さらなかったら、歴史、事実の真実、神の深いご計画は、決して分からなかった。真理、真実の書、聖書を心から感謝します！

3. 私たちは、真実を確認することなく、自分の知っている狭い、片寄った「事実の認識」が、噂話となって駆け巡る事がないように気を付けたいものです。

偽りを捨て、真実を語る事が出来ますように。

II 真実の正しい語り方

1. 愛もなくではなく、神からいただく愛をもって真実を語る。

「愛がないなら、何の値うちもありません」I コリント13：2。

「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し」エペソ4：15。

「もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい」ガラテヤ6：1。

愛もなく、語られる言葉は、受け入れられにくく、人を建て上げません。愛をもって語られる真実な言葉は、受け入れ易く、人を建て上げます。私達は、お互い、相手の人に、自分に対して、愛と真実があると感じる時、心を開き易いのです。

2. 真実を語る「時」をわきまえる。

「すべての営みには時がある。…話をするのに時がある」伝道者の書3：1、7。

相手の状況、疲れ、余裕、聞く耳、個人的に落ち着いて話せる状況か等をわきまえる。

神によく祈り、自分自身と相手の人の心を整えていただく。

「わたしには、あなたがたに話すことがたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます」ヨハネ16：12、13。

3. 公の場で語るべき事と個人的に語るべき事をわきまえる。互いに相手の人格、名誉を重んじる。他の人に言いふらすのではなく、当の本人に真実に語る。「もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです」マタイ18：15。
4. 意見と人格を区別する。真実に語り合い、意見が違ってても、人格を否定せず、主を間に置く交わりは、互いに愛し合い、互いの人格を重んじる、お互い神の目に高価で尊い存在と認め合うことができます。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」イザヤ43：4

Ⅲ「私たちはからだの一部として互いにそれぞれのものだからです」エペソ4：25

1. 私達は、キリストの体の一部分として、互いにそれぞれのものです。主にあって一つのからだ、一体となっています。「大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです」ローマ12：5
2. 一体であるからだの部分は、互いに真実を語り合い互いにそれぞれのものとして支え合っています。目が前方に危険なものを見つけると、脳に知らせ、それを足に知らせ危険から守られます。腐った物を口に入れた時、舌は脳に知らせ、危険から守られます。そのように、各器官は真実を語る事で協力し守られているのです。もし、教会の各器官が、互いに真実ではなく、偽りを語るなら、大変な混乱が生じます。教会の一致を保つ事は出来ません。
3. 私達は、キリストの体に結び合され、一つの体とされています。偽りを捨て、互いに愛をもって真実を語り合う時、混乱、危険から守られ、御霊の一致を保ち、成長し、かしらである主に、そして、互いに仕え合う体の各器官となれるのです。「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりもまさっていると思いなさい」ローマ12：9、10。

祈り：私達が、偽りを捨て、愛をもって真実を語り続けることが出来ますように。